

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ティーバージム（放デイ）		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 13日		～ 2025年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 2月 13日		～ 2025年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ご利用者や保護者様の満足度（安心感・楽しみ含む）が高い。	・日々のミーティングや振り返り等、個々の利用児の支援や楽しみ方、困り感を早々に更新しながら、個々に合った支援や活動を提案している。また、なるべく活動が固定化されないように意識しながら、かつ利用児の希望も組み込みながらプログラムを組み立てている。 ・キッズリー（アプリ）による連絡帳のやり取りにより、日々の支援の様子を細かく伝達出来たり、写真を添付することで楽しむ様子を保護者に伝えることが出来ている。	・利用児の意思決定支援を拡張していき、個々の自己肯定感の向上や、チャレンジする意欲を向上出来るよう取り組んでいきたい。
2	・活動プログラムの立案がチームで行えている。	・事業所として、チームアプローチの意識を持つことに重点を置いている為、日々のミーティング、非常勤スタッフへの連絡・情報共有体制強化が機能している。	・研修拡充やOJT・OFF-JTによる個々のスキルアップを図り、プログラムの質の向上を図っていきたい。
3	・事業所内の構造化の取り組みや、支援スペースが十分に確保されている。	・大枠でみた環境調整や構造化、動線等が機能していることと、活動の個別化や小グループ化による活動の分散がうまく機能している。	・その時の利用児の状況に応じて、タイムリーに環境調整を行っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会が開催出来ていない。	・これまで感染症の影響で開催出来ていなかった流れが無意識で続いていた為、父母の会に対する保護者のニーズキャッチ（アンケート等）が行えていなかった。	・ニーズキャッチを行い、どんな会合が求められているかをキャッチし、実施に向けて協議を進めていく。
2	・地域交流のアナウンスが不十分である。一つの目的に対する地域交流が少ない。	・これまで外出支援（買い物、食事、公園等での活動）や、ノーバリアゲームズの参加等は行ってきたが、一つの目的で交流する機会が少ないことと、地域交流としての位置づけの発信が不十分であった。	・より分かりやすい地域交流を検討していくことと、利用児や保護者がどんな地域交流を求めているか、ニーズキャッチを行い、実施に向けて協議を進めていく。
3	・ペアレントトレーニング等の家族支援プログラムの実施が伝わりにくい。	・これまでペアレントトレーニング等、複数の支援方法で個々の利用児や保護者に応じてアドバイスを行ってきたが、セミナー形式でのアプローチは行えていない。	・今後はセミナー形式の家族支援プログラムも実施に向けて協議していく。